

第1章

ライフデザインとは何か

この章では、生活の利便を追求してきた戦後の日本のあり方への疑問から問題提起をし、新しいライフスタイルの必要性について考えます。その後、生活の質や幸福に関する様々なモデル、言説を参照しながら、これらのあるべき人生・生活像の仮モデル、「真の豊かさ」モデルを提示し、以降の章での学びの基点とします。

1

日本人は豊かなのだろうか？

現代に生きる日本人は、世界で最も豊かな暮らしをしていると考えられています。本当にそのように理解してよいのでしょうか。客観的豊かさ(経済的・物質的豊かさなど)と主観的豊かさ(生活満足度、幸福感など)に分けて見てみましょう。

(1) 客観的な豊かさ

1) GDP (Gross Domestic Product : 国内総生産) で測る

GDPは経済力の指標ですが、国民全体の豊かさを代表するものとして扱われてきています。日本は2012年の時点でGDP総額において世界第2位の経済大国です。人口で割った1人当たりの金額にすると順位を下げますが、それでも下位の国々と比較すると雲泥の差があります。経済的には確かに豊かな国なのです。

2) 経済以外の要素

では、経済面以外をも考慮したときの日本の「豊かさ」はどの程度のものでしょうか。財団法人社会経済生産性本部は、健康、環境、労働経済、教育、文明(情報通信など)、マクロ経済の6つの要素を合計して「豊かさ」を指標化し、OECD(経済開発協力機構)加盟の30カ国についてランキングを

(2012年、10億ドル)

名目 GDP		1人当たりの名目 GDP (上位国)		1人当たりの名目 GDP (下位国)		
1	アメリカ合衆国	15,684.1	1 ルクセンブルク	107,206.4	177 ギニア	518.89
2	中国	8,227.0	2 カタール	99,731.1	178 ガンビア	502.96
3	日本	5,964.0	3 ノルウェー	99,461.6	179 エチオピア	482.97
4	ドイツ	3,400.6	4 スイス	79,033.0	180 マダガスカル	451.48
5	フランス	2,608.7	5 オーストラリア	67,722.6	181 中央アフリカ共和国	446.69
6	英国	2,440.5	6 アラブ首長国連邦	64,840.3	182 リベリア	436.35
7	ブラジル	2,396.0	7 デンマーク	56,202.2	183 ニジェール	408.33
8	ロシア	2,022.0	8 スウェーデン	55,157.9	184 ブルンジ	282.09
9	イタリア	2,014.1	9 カナダ	52,231.9	185 マラウイ	253.28
10	インド	1,824.8	10 シンガポール	51,161.6	186 コンゴ民主共和国	236.84
			11 アメリカ合衆国	49,922.1		
			12 オーストリア	47,083.0		
			13 日本	46,735.7		

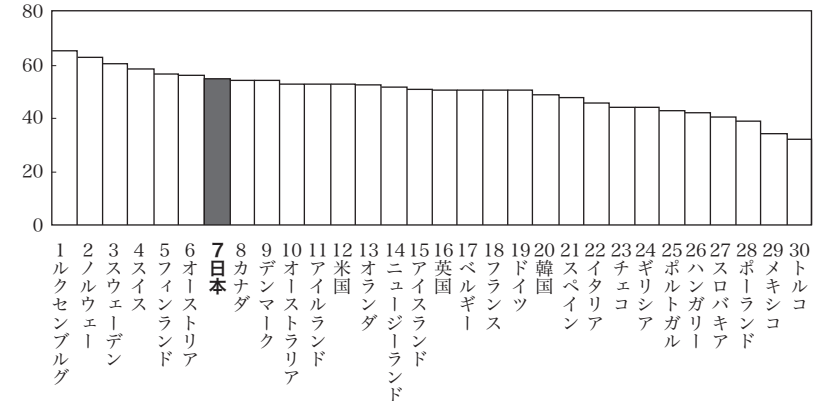
出所：IMF, "World Economic Outlook Database", April 2013

図表 1-1 GDP ランキング

発表しています。

これによれば、日本はマクロ経済が弱いもの(22位)、環境が4位、健康指標5位、労働経済指標9位、文明指標10位となり、総合で7位となっており、経済以外の社会面を含めて見ると、より「豊か」であるといえます。

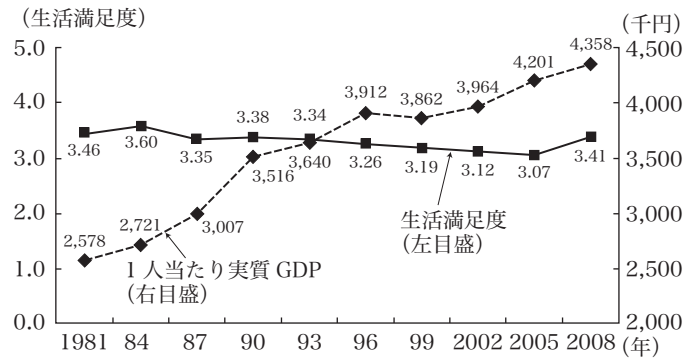
(偏差値)

出所：財団法人社会経済生産性本部「国民の豊かさの国際比較 2008年版」2008年
図表 1-2 「豊かさ総合指標」

(2) 主観的豊かさ

1) 「国民生活選好度調査」に見る生活満足度

内閣府「平成20年度国民生活選好度調査」において、生活満足度と経済的な豊かさ（1人当たりのGDP）が比較されています。これによると、経済的豊かさはバブル崩壊にも関わらず上昇を続けていますが、生活満足度はむしろ下降傾向にあるということがわかります。



出所：内閣府「平成20年度国民生活選好度調査」
図表 1-3 生活満足度および1人当たり実質GDPの推移

2) Happy Planet Index に見る満足度

次に国際比較の中で日本人の豊かさはどのように捉えられるでしょうか。生活満足度の国際比較は多数行われていますが、ここではまずHPI (Happy Planet Index) を取り上げます。

人類が物質的な豊かさを求め続けた結果、地球環境問題が深刻化し、今や人類の幸福は地球環境の保全と両立する範囲内でしか追及できないことは明らかです。1986年に英国で設立されたシンクタンク、nef (New Economic Foundation) は、これを端的に表わす指標を開発し、これにHPI (Happy Planet Index) と名づけました。計算式は「平

コラム
エコロジカル・フットプリントとは、人間生活が地球環境に与える負荷を面積で表現したもの。HPIではgha(グローバルヘクタール、約1万平米)を単位としています。2005年推計で2.1ghaが地球1個分です。

均寿命×人生の満足度÷エコロジカル・フットプリント」と簡単なものです。考え方は、自然環境になるべく負荷をかけないでいて、満足した人生を長く生きることが可能になっている国に高い得点を与えるというものです。

わが日本は、平均寿命が世界最高水準(2012年は83.4歳で151カ国中1位)になっているにも関わらず、また、エコロジカル・フットプリントが4.2gha(世界109位)、すなわち地球2個分の物質的な豊かさを享受しながらも人生への満足度が相対的に低くなっています(図表1-4参照)。

順位	国	満足度
1	デンマーク	7.8
2	カナダ	7.7
3	ノルウェー	7.6
4	スイス	7.5
5	オランダ	7.5
6	スウェーデン	7.5
7	ヴェネズエラ	7.5
⋮	⋮	⋮
47	日本	6.1

Source: New Economic Foundation, "The Happy Planet Index: 2012 report".

図表 1-4 HPI ランキング

3) Better Life Index に見る満足度

OECDは、GDPだけではつかめない人々のウェル・ビーイング(well-being)を測ることを目的に新しい尺度、Better Life Index (BLI)を開発し、2011年から発表し始めました。BLIは、①住居(housing)、②家計所得(income)、③雇用(jobs)、④共同体(community)、⑤教育(education)、⑥環境(environment)、⑦市民参加意識(civic engagement)、⑧健康(health)、⑨生活満足度(life satisfaction)、⑩安全(safety)、⑪ワーク・ライフ・バランス(work-life balance)の11項目について評価してランキングを発表しています。

なお、これまで日本政府がGDPに代わる幸福度の尺度を作成しようとした背景には、項目間のウェイト付けができないという事情があったのですが、おそらくこの問題を意識して、OECDの公式見解として総合ランキングは発表せず、どこの国が1位であるかはどの項目を重視するかによって異なるため“up to you”であるとしています。

2013年の発表(OECD加盟国34カ国および、ロシアとブラジルの36カ国対象)によると、日本は「安全」が1位であり、「教育」も2位と抜群であり、「家計所得」も悪くはありませんでした。しかし、「生活満足度」が低い(6.0で27位)のです(図表1-5参照)。